

## 漏斗胸手術(Nuss 法)後の安静・注意点

Nuss 法術後の経過、注意点についてご説明します。下記は当科での一般的な流れについて記載しています。

### 術後の経過について

手術当日、翌日、翌々日はベッド上安静とします。これは、挿入したバーの安定を待つためです。この間は点滴を行い、場合によっては点滴の痛み止めを併用します（内服及び坐薬のみで対応することもあります）。これは、疼痛によって呼吸がうまくできずに痰がたまると肺炎や気管支炎になりやすいので、痛みを軽減させる必要があるからです。また、電動ベッドを利用した起床は可能です。排痰のためにはむしろ積極的に座位を取るようにしましょう。トイレには、手を借りつつ行くことはできますが、体を捻る動作は避けましょう。手を挙げることは可能ですが、痛みが強い場合、無理の無い範囲で行います。手術中より尿道カテーテルを留置していますが、違和感が強い場合、お体の状態次第で抜去は可能です。食事は可能な範囲で取り、飲水は積極的に行う必要があります。

術後 3 日目から歩行を開始します。この時期から、ゆっくり手を上げたり、歩行器や点滴棒を押しつつ歩くことで、徐々に体を慣らしていきます。発熱や肺炎の症状がなく、痛みも落ち着いてくれば、点滴や背中チューブ（硬膜外麻酔チューブ）を抜きます。手術後 7 日を過ぎると疼痛も落ち着き、日常動作が活発にできるようになります。自分で起き上がり歩行ができて、胸部レントゲン写真に問題がなければ退院となります。経過に問題なければ、術後 7-14 日で退院できます。

入院中に行う検査としては、手術の翌日および数日おきに胸部レントゲン写真を撮り、バーの位置を確認するとともに肺の状態を観察（肺炎や無気肺などのチェック）します。また、血液検査も適宜行い、肺炎などを認めた場合、抗生剤治療を行います。

退院後は、バーのずれ、感染(化膿)、金属アレルギー反応に注意が必要です。

- ◆ バーのずれは術後 1 ヶ月以内におこりやすく、バーが入っている間（約 3 年間）は体を強く捻る動作や、他人と強く接触したり組み合ったりするスポーツはできません。術後 3 ヶ月を経過すれば学校での一般的なスポーツ（球技など）は行えます。胸部の打撲は、痛みはあってもほとんど問題となりません。バーがずれた場合は明らかにわかる事がほとんどで、僅かなずれというのはほとんどありません。ただし、バーがずれたと感じたら、なるべく早く受診するようにしてください。

- ◆ 感染はさまざまな細菌によって生じます。手術後しばらくしてから生じることもあります。感染が生じた場合には、抗生物質を点滴したり、縫合部を切開し膿を出して洗浄したりします。それでも感染が治まらない場合には、バーを抜き取る手術が必要になります。バーに一致した部分（側胸部の創周囲）に腫れや発赤、強い痛みを伴う場合には、なるべく早く受診するようにしてください。
- ◆ 当科ではチタン合金製のバーを用いているため、ステンレス製に比べると起こりにくいと考えられますが、体内(胸膜)で金属アレルギー反応をおこすことがあります。この反応は遅発型アレルギーといい、手術後 1 ヶ月から数ヵ月後におこります。この場合、金属が体質に合わないのでバーを抜く必要があります。定期受診の際、レントゲンで胸水の貯留を認める場合に疑います。感染と同様、バーに一致した部分（側胸部の創周囲）に腫れや発赤、強い痛みを伴う場合、なるべく早く受診するようにしてください。

退院後 1 ヶ月目、3 ヶ月目、6 ヶ月目、以降半年毎に外来受診（春休みなど、長期休暇に合わせて結構です）し、胸部レントゲン検査を行います。骨の成長でバーがずれていないか、胸水の貯留はないかなどをチェックします。バーは、胸郭が良い形に矯正されるまで約 3 年間入れたままにしておきます。

## 退院後の運動について

### <退院～術後 1 ヶ月>

日常活動や歩行は可能であり、退院後すぐに通学や自動車の運転が行えます。自転車の運転も可能ですが、体を強く捻る動作（左右・斜めの動き）は避ける必要があります、無理はしないようにしましょう。学童・生徒の方は、体育は休みましょう。

### <術後 1 ヶ月～3 ヶ月>

徐々に運動の範囲を広げ、体を慣らしていきます。軽いストレッチやランニング、軽い立ち幅跳びなどが行えます。団体競技など接触する可能性のある運動は避けるほうが望ましいですが、ボールを投げたり、蹴ったりといった基本的な動作は可能です。水泳も可能ですが、無理はしないようにしましょう。体を強く捻らない範囲でダンスも可能です。

### <術後 3 ヶ月～抜去まで>

積極的に体を動かし、胸郭の発達を促しましょう。ただし、器械運動（マット、跳び箱、鉄棒）や組体操など体を強く捻る動作や、柔道など他人と強く接触する運動は避けましょう。サッカーやバスケットボール、ドッチボールといった胸に衝撃の加わる可能性のある運動、団体での球技は可能です。持久走や 100m 走、縄跳び、ダンスなども可能で、運動

会や体育祭、球技大会に参加することができます。スキーやスケート、スノーボードなども可能ですが、無理はしないようにしましょう。水泳は、胸郭の発達を促すと言われており、有用な運動です。遠足や修学旅行、林間・臨海学校などの参加にも制限はありません。

#### <抜去後>

バー抜去時にも入院の上、全身麻酔下の手術が必要ですが、特に問題なければ3日ほどの入院で済みます。バー抜去後は、抜去時の創が落ち着くまでの2~4週間、強い運動を避けましょう。その後は特に運動の制限はなく、バーが入っている間制限していた運動を行えるようになります。バー抜去後、軽度の再陥凹が起きる方もおられますが、たいていは問題とならない程度です。気になるようであれば、再受診してください。

滋賀医科大学附属病院 総合受付 077-548-2111  
呼吸器外科外来 077-548-2559